

世界の女性と貧困

2024年1月23日

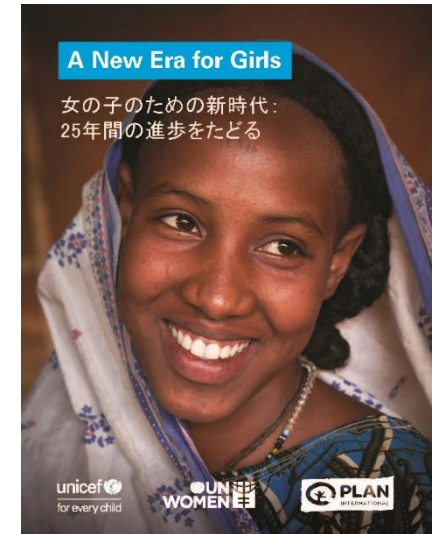
池上清子

(公財) プランインターナショナルジャパン理事長

(公財) アジア人口・開発協会常務理事

A New Era for Girls 女の子のための新時代:25年間の進歩をたどる(2020年)

- 1995年 世界女性会議@北京より25年を記念した国連と国際NGOなどによる共同報告書
- 学校に通っていない女の子の数は減少
 - 質の高い学習を受けているわけではない
 - 現在の社会に必要なIT技術や批判的思考力の訓練、理数系教育への進学は限定的
- 無職で教育も訓練をうけてない思春期の女の子の割合は男の子より高い
- ジェンダーに基づく暴力の存在
- 思春期に必要な栄養の摂取などの知識も必要



ジェンダー平等と教育は
密接な関係

Equal Measures2030で示す 5つのジェンダー平等推進のカギと SDGsゴールの関係



- ジェンダー平等には特にSDG 3(保健)、SDG4 (教育)、SDG5 (ジェンダー) SDG8 (就労)、SDG16 (法と公正) がカギとなる。
- 世界のジェンダーに関する政策提言活動(合計613) で最も多いテーマは「ジェンダーに基づく暴力」「SRHR：性と生殖に関する健康と権利」「経済的エンパワメント」「教育」

イコール・メジャーズ2030『Bending the Curve Towards Gender Equality by 2030』
https://www.plan-international.jp/about/pdf/EM2030_Bending_The_Curve_JP.pdf

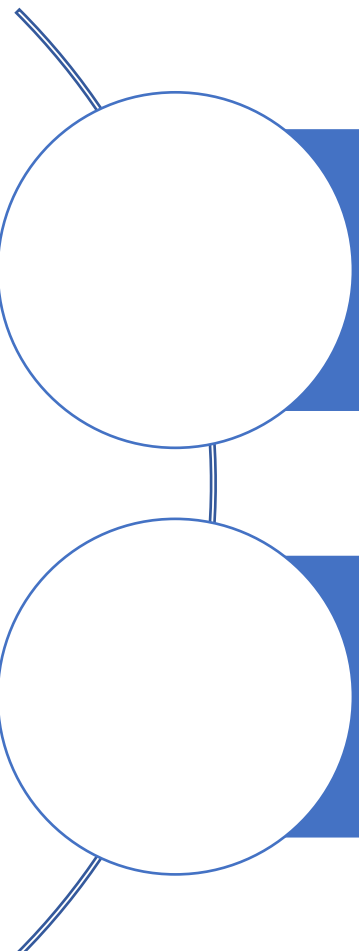
図2. 変化を加速すべき5つのジェンダー指標

Issue	 家族計画	 女の子の中等教育修了率	 国務大臣の女性比率	 職場でのジェンダー平等に関する法律	 夜の公共の場での安全性に関する女性の認識
関連したSDG	SDG 3	SDG 4	SDG 5	SDG 8	SDG 16
現在の改善ペースで指標を達成する年(世界平均)	2066年	2063年	2066年	2051年	2179年
すべての国で、改善ペースが速い国と同じペースになった場合に指標を達成する年(世界平均)	2028年	2028年	2022年	2025年	2032年
2030年までに指標を達成するために必要な加速ペース	3倍	3倍	2倍	2倍	13倍
ファクト	すべての国の改善ペースが速い国と同じペースになった場合、新たに4億人以上の女の子と女性が、子どもを産むかどうか、いつ産むかという計画をするために避妊方法にアクセスできるようになる。	すべての国の改善ペースが速い国と同じペースになった場合、新たに8500万人以上の女の子が中等教育を修了することができる。	政治的意思があれば、変化は早い。エチオピアでは、閣僚の女性比率が2018年の10%から、2019年には48%に増加した。	過去10年間の職場での法律が変わったことにより、2億1500万以上の女性が最低14週間の有休出産休暇を取ることができるようになった。	世界的に女性が安全であると感じることができるような取り組みに成果はみられない。このままだと、女の子と女性が夜道を歩くことに安全であると感じることができるようになるまで6世代以上かかる。

取り残されやすい人たち

- 子ども
- 女性
- 高齢者
- 障がい者
- 難民（政治難民、環境難民など）
- 国内避難民
- マイノリティ（少数民族）
- 社会の中心でなく周辺におかれている
グループ（ロヒンギャなど）

貧困下にある子どもと女性



2022年には世界で3億8,800万人の
女性と女の子が極度の貧困状態に
(グローバルには6億8500万人)

貧困下で暮らす人々の半数が18歳
未満の子ども

極度の貧困に置かれると、

十分な食事をとれ
ない

栄養が不十分

満足に教育を受け
られない

貧困とは

「極度の貧困」

- 世界銀行が定める国際貧困ライン(1日2.15ドル)を下回る暮らしを送っている状態。最低限の栄養、衣類、住まいのニーズが満たされていない状態のこと。

*世界銀行が定義した国際貧困ラインは、2015年から2022年までは1日1.9ドルとされていた。



© プラン・インターナショナル

子どもの上腕周囲を測って栄養状態を確認（ニジェール）

「相対的貧困」

- その国の水準で比較した際に、大多数よりも貧しい状態。所得中央値の一定基準（貧困ライン）を下回る等価可処分所得しか得ていない人の割合を、相対的貧困率という。
- 日本は8位（15.4%）で、G7（主要7カ国）のなかでは最も貧困率が高い

グローバルなジェンダーの主な課題 (保健医療関連)

グローバルなジェンダーの主な課題(保健医療関連)

- * 望まない妊娠
- * 男女比
- * 性感染症（特にHIV）
- * 妊産婦死亡
- * 性暴力・DV
- * 子どもの結婚
- * FGM

① Unwanted/Unintended pregnancy: Vulnerable stage of life---Youths and Adolescents(望まない妊娠と若い人)

Definition of Youths and Adolescents used by UN, WHO, WB

Youths: Persons between the age of 15 and 24

Adolescents: Persons between the age of 10 and 19

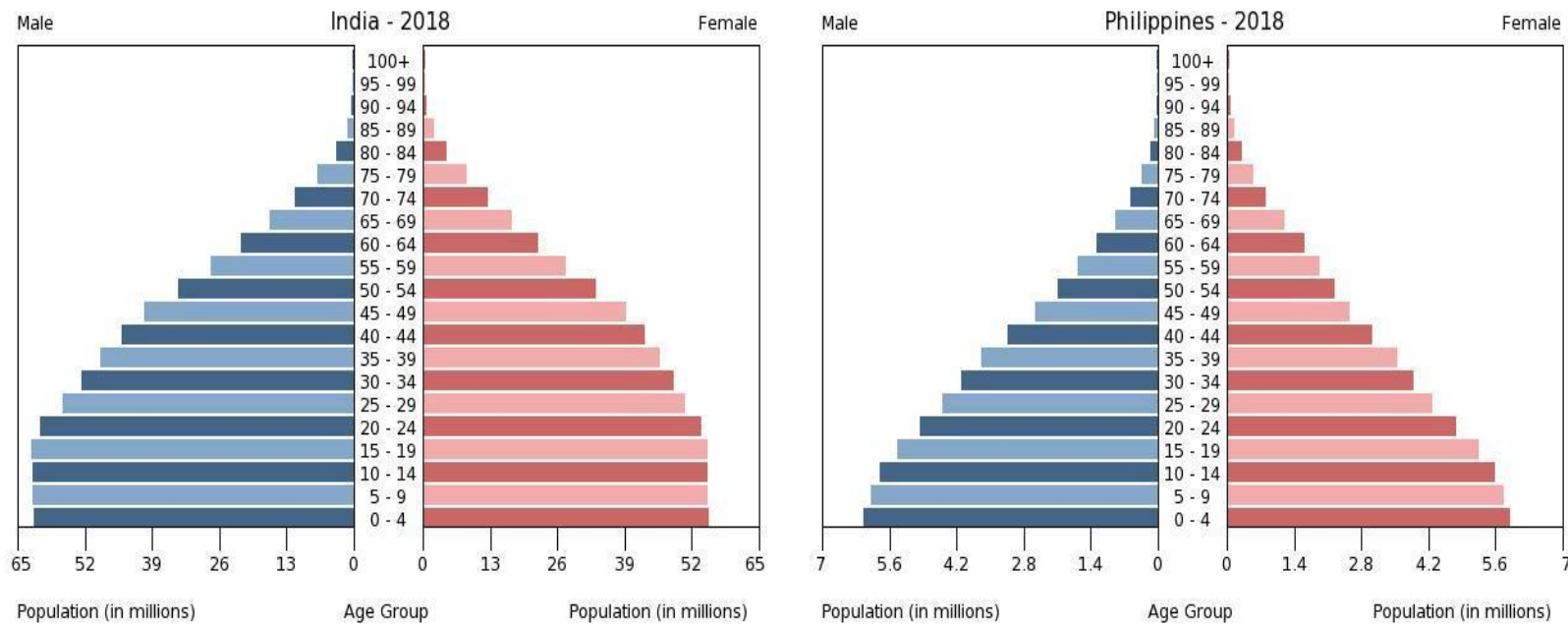
Young people: Persons between the age of 10 and 24

“We have an opportunity and responsibility to invest in the world’s 1.8 billion adolescents and youths aged 10 to 24. They constitute more than a quarter of the world’s population and almost 90% live in developing countries”

Dr. Babatunde Osotimehin, UNFPA Executive Director

② sex ratio (男女の性比)

インド(左)とフィリピン(右)の場合



Source: <https://www.cia.gov/library/publications/resources/the-world-factbook/>

③ HIV infection (WHO) (HIV感染)

Route of infection	Infection rate(%)
women ⇒ men	0.033~0.1
men ⇒ women	0.1~0.2
men ⇒ men	0.5~3.0
needle accident	0.3
mother ⇒ child (developed)	15~25
(without ARV) (developing)	25~45
Blood	90~100

④ Maternal Death (妊産婦死亡)

Three Delays (3つの遅れ)

- a. Delay in decision at home
- b. Delay caused by social infrastructure
- c. Delay in medical facilities

Responses (対応法)

- a. Family planning
- b. Trained birth attendant
- c. Emergency obstetric care



⑤ Gender based violence (GBV) (性暴力)

事例: UN Security Council Resolution 1325

Ethnic Cleansing (民族浄化)



Prevention

Protection

Participation

(other related resolutions: 1820、1888、1889)

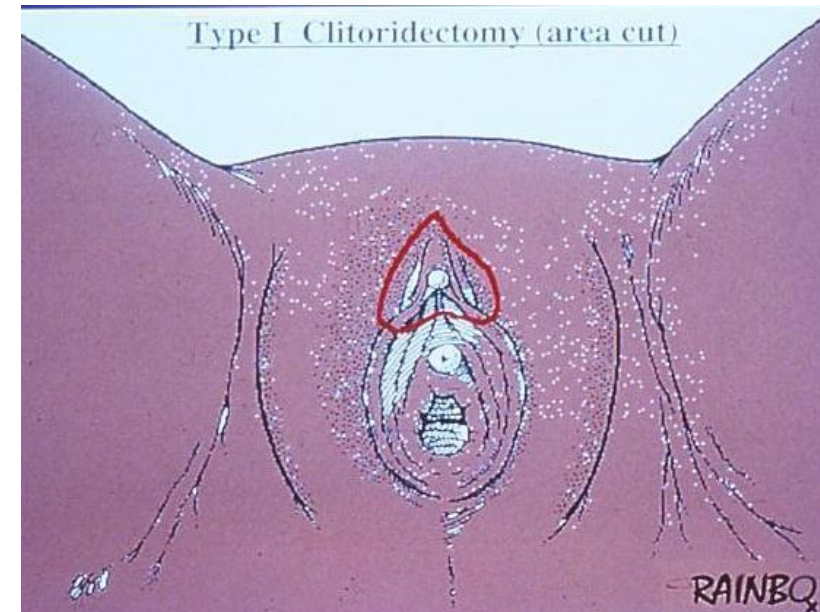


⑥ 早すぎる結婚(Child Marriage)



⑦ Female Genital Mutulation (FGM) 女性性器切除

- 医学的ではない文化的理由による女性性器の部分的または全体的な切除、あるいは性器をそのほかの形で傷つけること
- 主に乳児から15歳の少女が対象となるが、成人女性が対象になることもある
- イスラム圏に多く実施されているが、イスラムの教義の中に記載はなく、土着宗教、キリスト教徒においても実施されている



①～⑦の課題の中心は、ジェンダーと貧困

パンデミックが引き起こした女性の状況

- 2020年4月9日
グテーレス国連事務総長
「**新型コロナの感染拡大が既存の不平等を強め、社会的・政治的・経済的システムにおける女性・女性のぜい弱性を露呈させ、新型コロナの影響を増幅させた**」
- 新型コロナの影響からの回復において、女性や女の子を対応の中心に据えるよう各国政府に要請。

パンデミックが女の子に与えた影響



私たちの教育を守って～
紛争下の学校を女の子に
とって安全な場所にする
ために～

https://www.plan-international.jp/about/pdf/220210_Protect_our_education_jp.pdf

世界銀行データ参照：
<https://blogs.worldbank.org/ja/voices/2020-year-review-impact-covid-19-12-charts>

推定1000万人

- 世界銀行は、経済困窮や保護者に代わって無償ケア労働（家事・育児・介護）関連の負担を担うよう期待される傾向が高まり、長期的には教育を受け続けることが難しくなると指摘。
- プランは、推定1,000万人の女児がパンデミックのために学校を永久に退学する可能性があると指摘。

機会損失

- 女の子が学校を中途退学すると、早すぎる結婚のリスクが高まる。
- 世界銀行は、学習機会の喪失と退学率の上昇により、こうした児童・生徒は世界GDPの10%近い推定10兆ドルもの報酬を失う恐れがあると警告。人数にすると、新たに学齢期の子ども7,200万人が学習貧困に陥ることになる。

南アジアの貧困

- 経済急成長に伴う保健や教育状況が改善するものの、2015年時点で、世界の貧困層の3分の1に相当する約2億1600万人が1日1.90ドル未満で生活。
- 世界最多の人口14億2860万人を抱えるインドの貧困層は1億7000万人以上（世界の貧困層の約4分の1）
- 早すぎる結婚の背景にある貧困課題



早すぎる結婚の廃止を訴える女の子（インド）

女性の健康を守る戦略・取り組みの事例

- 1) Drivers Association (Ghana) 運転手組合との協同
- 2) One midwife in one village (Indonesia) 1 村一人の助産師運動
- 3) MDGs, SDGs (framework setting by UN)
枠組みづくり
- 4) FGM (legal vs change in traditional value/behavior)
グローバルな連帯
- 5) UN Security Council Resolution 1325
国連でのアドボカシー
- 6) WHO, 世銀等との連携

Living in a Global Society(グローバルな社会に 生きるには)

1) Diversity

多様性を認める

2) Equality and equity (誰もが公平に)

女性も男性も。

女の子も男の子も。

3) Cooperation and Coordination

協力と調整

ネットワーキング



ご清聴ありがとうございました。

ki@apda.jp